

広 報

な が つ 元

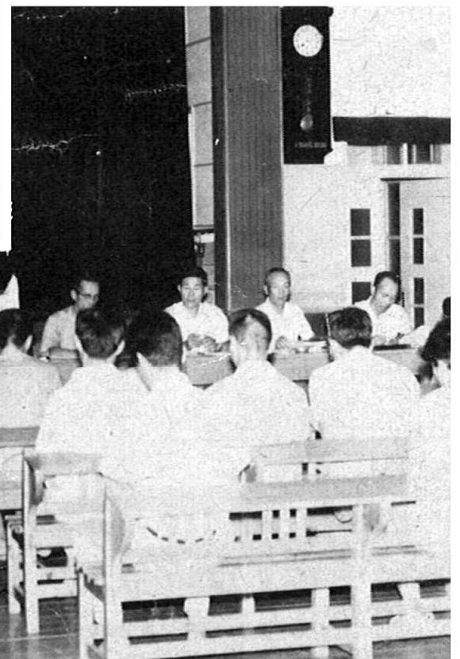
50年 8 月 号

第140号

発 行 所  
編 集 発 行 人  
大 分 県 ・ 日 田  
中 津 江 村  
斉 藤 隆 一

## 学校統合

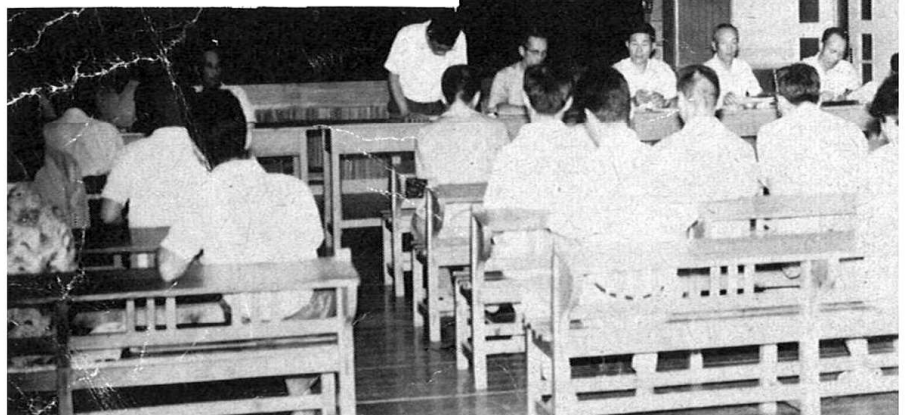
話し合いが  
行われる



## 人口の動態

昭和50年 6 月 30 日 現 在

人 口	2,444人
男	1,157人
女	1,287人
世帯数	606戸



# 50年国勢調査

## 10月1日におこなわれます

今年の十月一日には、全国いっせいに国勢調査が実施されます。国勢調査は、国内に住んでいるすべての人を対象として、ひとりひとりもれなく調査する国の最も基本的な統計調査です。わが国の国勢調査は、大正九年に第一回の調査がなされ、以後十年毎におこない、中間五年毎の簡易な国勢調査を含め、今回は十二回目に当たります。

今回の国勢調査は、五年毎の簡易な調査となつていますが、調査の内容はいずれも同じで、氏名、年令、出生年月、仕事の種類、世帯の種類、人員など十六項目について、みなさんの世帯にふだん住んでおられるすべての人について、もれなく申告していただくことになっていきます。

国勢調査は、わが国の人口の実態をしらべ、村財政を支える唯一の財源である地方交付税の算定のもとになり、地方議員の定数の決定など政治や行政の重要な基礎資料となるものです。日本に於けるこの調査は、全国のみなさん方のご協力と国勢調査員の方がたのご尽力によって、世界に誇り得る立派な成果を収めているのであります。中津江村における調査は、全村を二十四の区域に分れ、それぞれの一調査区に一人の調査員を内閣総理大臣が任命して調査にあたることになり、調査項目や調査票の記入の方法などについては九月号広報に記載しますが、今回の国勢調査について正確な数値を求め、これまで以上の成果が得られますようみなさん方に格別のご協力をお願いいたします。

## 新農業委員決まる

農業委員会の選挙による委員は一般議会議員選挙と同じく、公職選挙法に準じておこなわれますが、当村農業委員会では任期満了による委員十名に対し、十名の立候補者で選挙すること

もなく改選され、また推薦委員三名（農協一名、議会二名）も七月二十日開会の村議会で選任され、委員会では七月二十九日、第一回総会を開会し、会長に水野吉弘氏が互選されました。

△会長 水野吉弘 △会長代理 石川幸男（農協推薦）  
△委員 片桐正清、川野新平、末松義明、矢野金男、長谷部栄津弥、渡辺重信、山口由記、高原重俊、鷹野茂樹、△議会推薦委員 杉埜喜与次、高木加幸、各委員さんのご活躍をお願いいたします。

## 標準小作料の額が定められました

標準小作料は農業委員会が地域の実情にもとづいて自ら作成するもので、農地の区分を定め、自然的な条件及び利用上の条件を勘案して通常の農業経営がおこなわれたとした場合における生産量、生産物の価格、生産費等を考えて次の算式により算定されます。

標準小作料 = 粗収益 - 生産費用 - 経営者報酬

標準小作料算定について農地の区分は本村は農山村地域であり、土質、収量、圃場、整備の状況、水利系統等、まったく同型で地域差をつけることなく、全村一地域として算定することが最も妥当であると算定します。

なお普通畑は自家用程度につき小作料は設定しない。

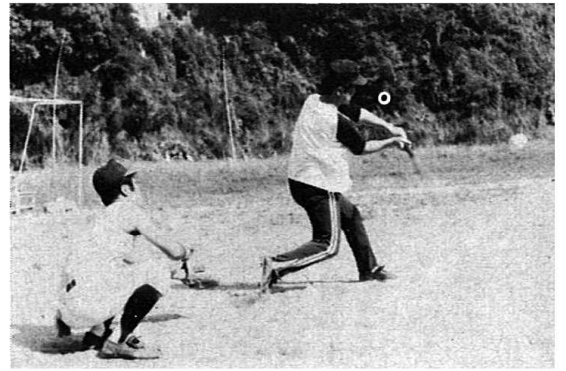
## 農地区別標準小作料 (1反当り)

項目	値	田
		第1地域
粗収益	主産物	91,080円
	副産物	6,250
	計	97,330
生産費用	種苗費	1,250
	肥料費	9,391
	防除費	3,094
	水利費	500
	諸材料費	2,000
	建物費	1,432
	農機具費	8,692
	光熱費	1,000
	賃料々金	1,800
	雇用労賃	5,000
	家族労働費	35,572
純収益	資本利子	5,513
	公租公課	1,676
	計	76,920
純収益		20,410
経営者報酬		3,038
小作料		17,372

100円未満の端数は整理し17,000円の標準小作料として定める。

# 早朝ソフトボール終る

## 優勝はラッキーズ(6戦全勝) (丸 蔵)



六月二十三日から実施されていた第二回早朝ソフトボール大会が、八月四日の川辺对新美津和の試合をもって終了しました。

試合の成績はラッキーズ(丸蔵)が六勝〇敗で初優勝をかざり、昨年度優勝のトショリーズは二位で連続優勝の夢は達成することができませんでした。

各チームの成績は表のとおりで、一位ラッキーズ、二位トショリーズ、以下川辺、鯛生、栃原、新美津和野田という結果になりました。

	ラッキーズ	野田	川辺	新美津和	トショリーズ	鯛生	栃原	勝敗
ラッキーズ(丸蔵)	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	6勝0敗
野田	×	×	×	×	×	〇	×	1勝5敗
川辺	×	〇	△	△	〇	×	〇	3勝2敗1分
新美津和	×	〇	△	△	×	×	×	1勝4敗1分
トショリーズ	×	〇	×	〇	〇	〇	〇	4勝2敗
鯛生	×	×	〇	〇	×	〇	〇	3勝3敗
栃原	×	〇	×	〇	×	×	×	2勝4敗

今年度は昨年度に比べ、雨が続きたいものの、負傷者もなく、順調に運営ができました。

朝五時すぎに起床し、六時から七時まで一時間の試合を行ない、それから仕事ということは参加された人にとっては大変つらかったものと思います。参加された方々は大変お疲れさまでした。

なお、早朝ソフトボール大会の表彰式は、十月十日体育の日に行なわれる秋季ソフトボール大会において行ないます。

## そこにボールがあるから

### 大分市の子どもたちと サッカーの交歓試合

七月二十五、二十六日の二日間、大分市の敷戸小学校、滝尾小学校の子どもたちと丸蔵、川辺小学校の子どもたちがサッカーの交歓試合を丸蔵小学校グラウンドでおこないました。

そこで大分市の父母に津江の印象、子どもたちの印象を聞いてみると……

「学校がきれいであること、生徒数が少ないこと、そして何よりもびっくりしたのは津江の子どものたくましさでした。山村の学校の子どもといえは内気で無口と思っていたのに、子どもたちは明るくてとても健康的です。男女の差別もなく、みんななごやかで家庭的雰囲気が漂っています。

サッカー部の子どもたちはまるで千人の中から選ばれた選手のように私たちがたくましく見えました。次に父母の方々の学校に対する献身的な奉仕に深く頭が下

がりました。現在はすべて金でものごとの判断をしようとする時代、丸蔵小の父母の損得をかえりみない数々の奉仕、私たちがよそからきた者にはうらやましいかぎりです。

それから自然に恵まれた環境の良さも忘れられませんが、くぬぎ林での虫とり、谷川での水遊び、子どもたちには忘れられない思い出の地となるでしょう。」

かわききった土の上を子どもたちは元気に動きまわり、終わったあとも仲良く話をはずませていました。



# 自分の体は自分で

自分の体は自分で守るという考えで、村でおこなっている胃ガンや子宮ガンなどの検診は毎年かかさず受けています。特に健康法ということはやっていませんが、体の調子が少しでもおかしいな

と思ったら、一応お医者さんに見てもらうことにしています。また血圧が高いの



矢野スミエ (五十九才)

で一番気を使い、月に三度医者に行き血圧を計ってもらいます。

食べ物にも気をつけ、間食はほとんどしません。睡眠は夜十時から朝六時ごろまでとっています。

自分なりに考え、また人から聞く健康法など関心をもつてきき、自分の体は、やっぱり自分で守らなければという気持ちで毎日を過ごしています。

# 私の健康法

(3)

別にこれといってやって

早寝・早起きだけは  
いませんが、早寝、早起きだけは守っています。夜は、九、十時ごろまでに休み、朝は六時に起き、庭に出て深呼吸をし、汗を少しでも、という考えで歩きまわります。

年をとりました



島崎ツル子 (六十六才)

ので、食事には気をつけ、

なるべく果物を多くとりま

す。食べすぎた時などはあまり良くないようです。

精神的には気長になるよう心をおさえて楽しく過ごすとうと心がけ、リズムある生活、張りのある生活が望ましいことだと私は思っています。

# お作りのだれい (2)

◎カスタードプディング  
1材料 (プリン型六、八個分)

- 卵 三個、牛乳 二本
- 砂糖 一〇〇グラム
- バニラエッセンス 少量
- バター 少量
- A 砂糖 五〇グラム
- 水 大きじ三杯
- 水 小じじ½杯

2作り方

①プリン型にバターをぬる。

フライパンでAを煮つめ、こげ色がついたら動かし水を入れ、プリ

ン型に入れる。

②ボールに卵、砂糖を入れあたためた牛乳を加え、こしてエッセンスを入れ①の上にそそぎ入れる。

③弱火の蒸し器で十五、二十分静かに蒸し、とりだして約五分おいて型から出す。



# ご寄付お礼

中津江村社会福祉協議会に次の方々より多額の寄付をいただきましたので、紙上を借りてお礼申し上げます。

- ◎父母石貞之 亡福太
- ◎川良 平六 亡タツ
- ◎高原勇三郎 亡ヨシノ
- ◎水野 英男 亡アキノ

(香典返し) 敬称略

- ◎石鞍 弘 亡強
- ◎高原 安彦 亡万太郎



# 〈文化財紹介〉

## 津江殿の墓

スズレ 簾部落の高木元雄氏宅から西の方へ百ほど登った山の尾根に津江殿の墓と伝えられているものが残っている。墓は自然石を墓碑に立てたものだが、保存のため高木氏が墓石を自費で作って祭っている。

伝説として残っているのは、津江殿の姓名は不明で

あるが、昔、戦いに傷つき疲れはてて空腹でここまで落ちてきて、山作にきていた女人に食を求めたところ塩煮の芋を差し上げたので津江殿は大いに喜び、山林十数町歩を自由に耕作してよいと与えたと伝えられている。

これが最近までスズレの



共有地として残っていたというので、津江地区の豪族であったのではないかと思われる。

# 文化財教室が

## 開かれます

最近、文化財に対する関心が高まっています。大変喜ばしいことです。関心が高まるにつれて、文化財保護も忘れてはならないものです。教育委員会では、県教育委員会と共催で左記のとおり文化財教室を開催します。是非ともご参加下さいませようお願いします。

日時 九月六日(土)  
午前十時～十二時  
場所 中津江村公民館  
内容 「大分県の遺跡」  
— 日田市郡を中心として —  
講師 賀川光夫先生  
— 別府大学教授・県文化財専門員 —



# 〈健康メモ〉

## 食生活を考えてみませんか

日中の暑さの中にも、膚にひんやりと秋の気配を感じるこの頃です。今年の夏

は夏バテしませんでしたか。夏バテの原因の大半は食生活からくるもの、そして何よりも私たちが健康に生活していく上で基本となる食生活について今回は書いてみました。

まず、何よりも食生活の上で大切なことは「ばっかり食」ではだめだということです。つまり野菜、または魚ばっかりという食事はだめだということです。私たちが毎日何ばなく食べている食物にも、実はそれぞれ働きを持っているのです。

それらの働きは大きく分けて三種類あります。つまり図のように①血や肉をつくる(赤)、②力や体温となる(黄)、③体の調子をよくする(緑)の三つです。ですからご飯と魚ばかりの食事では①と②の働きはできても③の働きはできないこととなります。

毎日毎日のことで主婦の方は大変ですが、家族の健康管理の上からも大切な食生活です。毎回の食事に赤黄、緑とバランスのとれた食事を!

赤		黄		緑	
血や肉をつくる		力や体温となる		体の調子をよくする	
牛乳	卵・チーズ	豆類	魚・肉類	砂糖・いも類・めん類・米・パン	バター・油
				その他の野菜	果物
				色のついた野菜	
				人参・カボチャ	
				ホーレン草・ニラ	

# 投稿募集

詩、作文、写真等お寄せ下さい。作品は原稿用紙一枚程度で、氏名、年令、職業、部落名を記入の上、教育委員会まで申し込んで下さい。なお匿名希望の時は、その旨ご記入下さい。

また、役場やその他のことでわからないこと、知りたいたいこと、苦情などもお寄せ下さい。

# 福岡空港で

## 中津江産椎茸販売

九州の空の玄関口福岡空港で、中津江で生産された乾燥椎茸が七月十日より販売を始めました。これは中津江農協と、「元川辺部落に住んでいました鷹野俱孝氏の経営する丸福産業」を

品物は農協で生産者より出荷された椎茸を、包装す

る機械で竹カゴに四通りに詰めて出荷しています。今後はこれを機会に、椎茸を筆頭に干タケノコ、ぜんまい等、津江の特産物を販売し農家の所得の向上につながることを期待しています。飛行機で旅行する方、福岡空港においての方はぜひ御覧になって下さい。津江の椎茸が日本の端々まで行きますことを期待して。



# あなたはどんな

## 勉強をしていますか？

五月に開講しました公民館の定期講座の「申し込み数や出席率」などについてご報告します。

表からわかりますように講座の出席率は平均六十七%と、良く学習していただいています。

地区別にみた場合は川辺地区が多く、公民館に近い地区の申し込みがどうしても多くなります。中央公民

館のほかに地区館があればと思います。また長栄学級は各地区よりまんべんなく申し込みをいただいています。

### 最後まで出席を！

最後までご出席下さるようお願いいたします。さらに、公民館の講座について、村民の方々の希望などをお聞かせ願えたらと思います。

### 昭和50年度公民館講座区別申し込みと出席状況 (男女合同)

8月5日現在

校 区	講 座	趣 味		教 室			学 級		計 (人)	校 区
		詩 吟	民 踊	料 理	編 物	生 花	長 栄	しあわせ		
川 辺 小	1	1	7	1	1	4	2	0	16	107
	2	7	10	2	3	3	1	0	26	
	3	2	9	6	3	12	5	13	50	
	4	3	3	0	1	3	0	5	15	
丸 蔵 小	5	2	1	4	1	3	7	3	21	28
	6	0	0	0	1	1	0	0	2	
	7	0	0	2	2	0	1	0	5	
鯛 生 小	8	1	0	2	4	1	3	7	18	22
	9	0	2	0	0	0	2	0	4	
計 (人)		16	32	17	16	27	21	28	157	
出席率 % (約)		71	79	82	82	56	57	42	平均 67	

# 雑 記

終戦記念日(八月十五日)

六日は広島原爆記念日、三十年前の午前八時十五分、広島に投下したたった一発の原子爆弾で二十万余りの人命が一瞬のうちに消えさり、ついで九日、午前十一時、長崎市で七万余りの死者ができました。これが終戦の決定的瞬間だったといえます。

子どもたちは、この日の意味をきく機会もなしに過ぎ、ラジオ、テレビなどで断片的に見ても、そのころのことを感じとれはしません。また親たちは、もういいかげん忘れてしまいたいと思う心と、決して忘れないとする複雑な気持ちが入りまじってむかえることでしょうか。

体で知った歴史のひとつを、それだからこそ願わずにいられない平和のありがたさを子どもたちと話してみてもどうでしょうか。